

令和3年度 学校評価報告書

学校名

三田市立狭間中学校

1 学校教育目標

人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きる生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

1. 学力向上
2. 生徒の人権が尊重される学校づくり
3. 開かれた学校づくり
4. 生徒理解に基づく生徒指導の推進
5. 教職員の実践的指導力の向上
6. 働きやすい職場環境の整備

3 総合的な自己評価

全体的に見て生徒は真面目に学習に取り組み、落ち着いた学校生活を送っており、総合的に見て概ね良好な評価である。しかしながら、コロナ禍における感染不安や家庭環境に起因する長期欠席生徒の増加等が今年度も引き続き大きな課題であった。次年度はより一層、全教職員で生徒理解に努め、安全で安心した学校生活を前提に、一人一人の生徒が活躍できる機会と場を設けることや、わかる授業、基礎基本の充実等に努めていく。

4 総合的な学校関係者評価

生徒の学校生活は、概ね良好な状態であると評価する。教員も「主体的・対話的で深い学び」などの新たな授業形態をタブレットも活用しながら推進して授業力の向上に努めている。今後も一層タブレットの活用を積極的に進め、個別最適化された学びを推進し、学力向上に努めるとともに「人間尊重」を基盤とした正しい生徒理解による適切な指導を心掛け、安全で安心した学校生活に努めること。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	・年間の標準授業時数を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に時間割を編成し標準授業時数を確保しながら教育活動の充実に努めた。 ・学校行事については、内容の精選を図りつつ充実した内容となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の目的を明確に設定し、新たな教育活動については、計画的に実施していく。 ・行事の精選を行いながらも、目的意識を明確にし、その内容が一層充実したものとなるよう工夫を凝らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画を見直し、工夫しながら授業時数を確保しているが、行事の精選と開かれた学校づくりの適切な両立を願う。 ・地域住民と連携した教育活動を今後も推進すること。そのために学校地域連協議会を有効活用して関係機関との連携に努めること。
	・教育活動を見直し、精選と充実を図る			
	・適切で充実した学校行事を実施する			
学習指導	・わかる授業で「確かな学力」を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習システムによる少人数学習を充実させている。 ・朝学習を学習評価にも反映させ内容の充実を図る。 ・人間尊重を基盤に学校生活全般で指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で授業力の向上に努める。 ・基礎学力定着のため朝学習で学習アプリの活用も推進した。 ・学習相談の在り方を工夫し、個に応じた対応や学習内容の精選を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で指導力の向上を図るだけでなく、指導と評価を一体化させていくこと。 ・タブレットも有効に活用し、基礎学力の定着を目指すこと。 ・職員への研修の充実が必要である。タブレット活用研修の充実を求める。
	・基礎的学力の定着を図る			
	・命や人権を大切にすることを育てる			
生徒指導	・規律正しく、落ち着いた生活を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境で学校生活が維持できている。 ・「いじめアンケート」や教育相談等のあらゆる手段で生徒理解と問題の早期発見に努め、問題解決には組織を機能させて適時・適切に指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ基本方針」の周知徹底を図り、いじめ見逃しゼロへの意識を徹底する。 ・ハイパーQUを実施し、生徒理解や対応に生かしていく。 ・学級活動や道徳教育の充実等により、生徒一人一人に自己有用感を感じさせ、自尊心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は減少傾向にあり、落ち着いた学校生活が維持できている。 ・いじめ対応については教育相談に加えSC,SSWを有効に活用して適切に対応すること。 ・スマホサミットへの参加など、生徒会が主体となって生徒指導に係る課題に取り組んでいることは大変有益である。
	・いじめや暴力を許さない学校文化を創る			
	・教育相談を充実させ、生徒理解に努める			
	・個々の生徒が認められ活躍できる学級・学年活動を行う			
安全・保健管理	・安全で安心な生活環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、全教職員で施設や設備の安全点検を行っている。 ・情報モラル教室をはじめとする安全教育を計画的に実施し生徒・保護者への啓発に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検に加えて、生徒に快適な生活環境の意識を持たせ、教職員とともに環境美化にも努めさせる。 ・新1年生対象と保護者対象の情報モラル教室の実施など保護者や地域と連携した取り組みを一層推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を充実させ、安全安心な環境整備につとめること。 ・保護者への啓発が重要となる。今後も、入学説明会やPTA総会等の機会を有効に活用すること。 ・コロナ禍で生徒が精神的に不安になっているので教育相談も充実させること。
	・危険回避の安全教育と安全指導に努める			
保護者や地域との連携	・学校や生徒の様子をわかりやすく伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信の機会を増やしホームページへのアクセスを促した。 ・学校開放の機会は減ったが、定期的に情報発信には務めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでは幅広い情報を発信するとともに学年・学級通信等の充実にも努める。 ・ネット配信などコロナ禍でも可能な地域や家庭との連携体制を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の手段として、保護者宛てメールを有効活用し一層ホームページ等の閲覧につなげていくこと。 ・ネットを活用し学校評価アンケートを集計できたことは良い取組であった。今後も積極的活用を望む。
	・学校行事などで、学校を開放する機会を設ける			
研究・研修	・研究テーマを設け、実践的指導力の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが工夫して道徳研究授業や各種の研修に取り組めたが、各教科の相互参観等の機会は無かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びにもつながるタブレット活用に係る教員のスキルに格差があるので、個別の研修等を計画し実践的指導力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳研究授業などに取り組めたことは評価できるが、タブレット活用や主体的・対話的で深い学びに繋がる各教科の研修等が十分に実施できるよう工夫すること。
職場環境の整備	・定時退勤日やノー部活デーを徹底させる	<ul style="list-style-type: none"> ・ノー部活デーの完全実施に加え、定時退勤日の実施率を向上させた。 ・ハラスメントは、日頃の言動に気を配りながら、研修と自己点検を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の工夫により、5時を定時退勤時間と定め、教職員の意識改革を図っている。 ・定期的に研修を行い、自己点検するとともに、ハラスメントを許さない職場の雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心身の健康が、心豊かな教育活動に繋がると心得、一層推進を図ること。 ・ハラスメントを許さない教職員関係は、適切で信頼される生徒指導につながる。今後も自己点検に努めること。
	・ハラスメントのない働きやすい職場づくりに努める			